

「できること協力したい」

新型コロナウイルスの感染拡大で全国的にマスク不足が続く中、女性用下着企画製造卸の「渡辺商店」（本社名古屋、渡邊敬一代表取締役CEO）は、佐世保市内の二つの工場で大手法化粧品会社が運営するエステ店向けの布製マスクを緊急生産している。女性用下着の製造で培った立体の裁断や縫製の技術を生かし、3月上旬までに1万2千枚を納品予定。「このようなときだからこそ、できることとで協力したい」と急ピッチで心える。

2月27日午後。渡辺商店 トドアスポーツメーカー店ローゼンエックワークや化粧品会社などのO.E.S（柚木元町）の広々とM（相手先ブランド）とした部屋で、女性社員ら（生産）でスポーツブラが白い布にミシンをかけ、や下着などを生産。自社確かめたりしていた。「縫も手掛ける。いかけの下着を置いたまま、マスクの仕事をしては、2月20日ごろに依頼もらっています」。工場を受けた。施術の際に従長の石橋幸忠さん(51)は、従業員と客が接近する機会が明かした。

渡辺商店は、有名アウクの入手が困難になった

佐世保の女性用下着企画製造工場



ミシンを使って布製マスクを縫う社員
佐世保市柚木元町、渡辺商店ローゼンエックワークス



佐世保市内の二つの工場で緊急生産している布製マスク

布製マスクを緊急生産

素材は、抗菌や防臭機能がある柔らかな綿を採用した。ブラジャーのトップを縫う技術を活用。長時間の着用でも負担を感じないように立体型に仕立てた。繰り返し洗って使うことができる。

短期間で大量に生産するため人員体制も強化した。元社員にも協力を呼び掛け、ローゼンエックワークスと子会社の小佐渡辺（小佐々町）で計約20人を配置。作業効率を上げるため、1人1工程に専念するようにした。

27日は「第1陣」となる2千枚を出荷した。ランジェリーに比べ、商品単価は高くない。石橋さんは「数字的には苦しいが、取引先の困っている状況を解消し、お客さんに安心してくつろいでほしい」と話した。

（嘉村友里恵）

長崎新聞

発行所
長崎新聞社
長崎市茂里町3-1 〒852-8601
©長崎新聞社2020

3月3日(火) 仏滅
(旧暦2月9日)

総合案内 (095)8442111
報道部 (095)8469240
広告部 (095)8444874
事業部 (095)8445261
佐世保編集 (095)269-145

販売部 (095)8445063
読者サービス (095)8442199
開発センター (095)8447093



きょうの紙面

高校生 NPT 会議へ 21面

長崎、広島両市の市民団体「高校生平和大使派遣委員会」は2日、4月から米ニューヨークで開かれる核拡散防止条約(NPT)再検討会議に合わせ、現地に高校生3人を派遣すると発表した。

市場安定へ日銀が談話 3面
北朝鮮が飛翔体を発射 6面

被爆・戦

2月の木

九州経済調査協会 市、九経調)は2日の指数で2月の全三泊施設稼働状況を分ところ、本県は前年19・9%の減だった。全国平均も19の減。いずれも比較2019年7月以降の下落幅。新型コロナウイルスの感染拡大に伴バンド(訪日外国の減少、イベントの延期などが要因とる。

九経調は、宿泊予約の空き室データを自身の指数を算出。客率とは異なる。

前年同月比の下落も大きいのは大阪府4%減で、沖縄県の2%減が続いた。九州では沖縄県に次いで24・6%減、大分県22

県、

県は2日、県内イルス感染の疑い果について、医療イッターで情報発表した。

それによると、検査し、いずれも